

令和7年度特定健診歯科保健指導 導入事業研修会

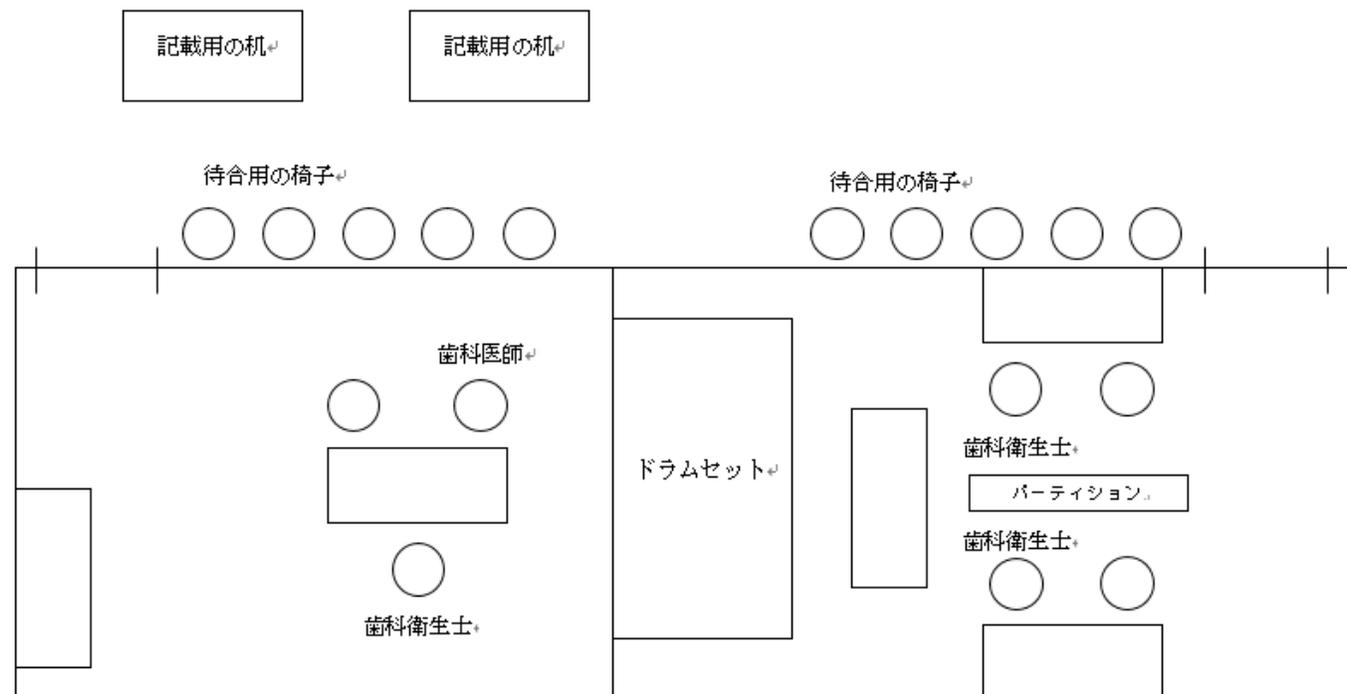
～山元町実施状況～

実施概要

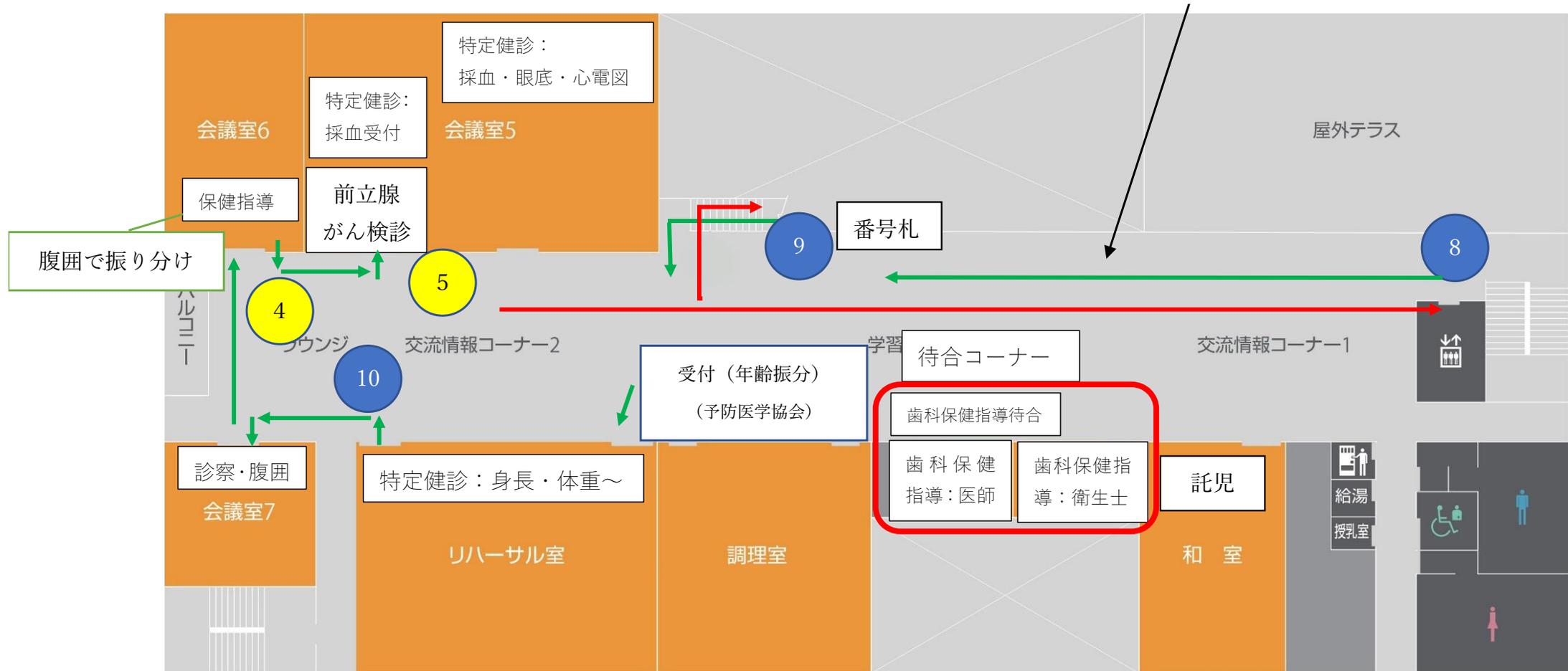
実施日	実施会場	特定健診受診者数 (40歳～74歳)	事業参加者
令和7年9月10日(水)	つばめの杜ひだまりホール	96名	32名
9月11日(木)		107名	22名

実施体制

- 口腔チェック：歯科医師 1 名／歯科医師補助 1 名
- 歯科保健指導：歯科衛生士 2 名
- 審査票記入補助及び会場誘導：1 名
- 事業主旨説明及び会場誘導：1 名



会場図



事業に参画した理由・背景

- 令和元年度まで集団健診会場で65歳以下の住民に対して、保健指導を実施していたが、健診会場の変更と共に令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策のため中止とし、住民への保健指導の機会がなくなった。

⇒少しでも保健指導の機会を持ちたい。

- 令和6年度の事業実施を踏まえ、より効果的な実施体制を確立するため。
- 歯周病検診の受診率が低く、改善の必要があった。

実施に当たり期待した効果

- 歯科保健指導を受けることで、自身の口腔内状況を知り、口腔ケアの重要性を理解してほしい。
- 歯周病検診の受診率を向上させたい。

事業を実施して得た効果や利点

- 健診の流れの一環で保健指導を受けることができ、口の中を見てもらうきっかけになった。
⇒口腔衛生を意識することにつながった。
- 歯科受診をしていると答えた方もおり、自身の口腔を気にかけていることが分かった。
- 集団健診の機会に、歯科医師や歯科衛生士からアドバイスを受けることができ、良かったとの声も聞かれた。

実施してみたの課題

- 本来受けて欲しい町民（歯科口腔保健に関する意識が低い人）に口腔チェック等を受けてもらうための工夫が必要。
- 会場誘導、記入補助等の人材が不足した。
- 60歳代の受診者が多く、40歳代の若年層の受診者が少ない。
- セット健診（特定健診、胃がん検診、結核・肺がん検診、前立腺がん検診）を実施しているため、歯科口腔保健指導を実施している方は、健診に係る時間が長くなってしまう。また、胃がん検診を実施しているため、咀嚼力チェックガムの使用ができない。

次回実施時に工夫したいこと

- 特定健診会場内にポスターなどを掲示し、待ち時間でも歯科口腔に関心を持ってもらう工夫をする。
- 事前に町ホームページやSNS（LINE）で周知を行う。
- チラシの活用（事業での配布、健診の待ち時間に配布するなど）

今後の展望

- 歯科保健指導を受ける機会を増やすため、他の健診事業にも応用できるか検討する。
- 町民の口腔状態の改善につながる事業の検討を行っていく。
(ヘルスチェックデーでの健康講話の実施など)

令和7年度モデル事業として実施してみても

- 町内歯科医師の先生方や、各関係機関の協力のもと、事業を実施することができたが、マンパワー不足などの課題も見えた。
- 既存の事業の中で、人が集まる場所を活用し、実施することのメリットを感じた。
- 特定健診やがん検診だけではなく、歯科健診も大切であることを周知できた。